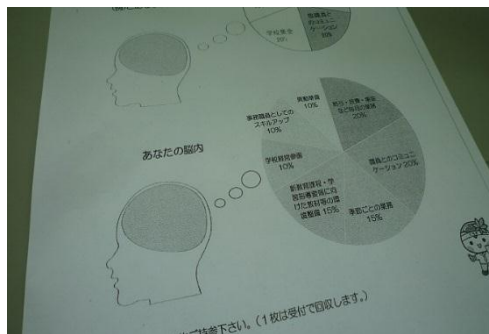


平成29年度 ステージⅡ（職務領域拡充期）研修「組織マネジメント」

10月17日（火）、栃木県教育会館において、採用4～9年目の事務職員を対象とした「ステージⅡ（職務領域拡充期）研修 組織マネジメント」を開催しました。講師に、日光市教育委員会事務局 学校教育課 副参事兼教育指導係長 岡本 一穂 氏、同 主幹兼指導主事 森山 泉恵 氏を迎え、58名が研修に参加しました。

はじめに、グループごとに事前課題で作成した、普段、自分の頭の中を占めている仕事の内容とその割合の円グラフを見ながら、その理由を織り交ぜ2分以内で自己紹介を行いました。受講者はお互いにその内容に共感したり、感心したりと研修の始まりから笑顔が見られる雰囲気が作られました。



講義では、組織における「マネジメントの基本と原則」についてから始まり、そして、マネジメントは「成果」をあげなければいけないこと、その成果に責任をもつ



者がマネージャーであり、複数の人間が互いに協力し課題に取り組む必要が生まれたとき、組織としてマネジメントを必要とする、というお話がありました。そして、学校において「成果」を得るための条件について説明がありました。

そこから、今回の研修テーマを「プロジェクト・マネージャーをまかされたら」とし、受講者が校長から校内の不正会計撲滅プロジェクト・マネージャーに指名されたという設定のもと研修が進められました。その、プロジェクト・チームを立ち上げる前の準備として「①共通目的の設定、②問題発見、③解決策の検討、④同僚を説得する、⑤プロジェクト・チームをつくる」というステップを、それぞれグループワークを交えながら学んでいきました。

まず「機会・動機・正当化」の3つの条件が重なったとき人は不正をする可能性がある、ということ踏まえ、共通目標を客観的環境である「機会」を無くす、つまり「会計の不正が起きる可能性をなくす」と設定しました。

次に、問題発見には「未知の未知（知らないことを知らない）」を知ることが大切だというお話がありました。そこで、問題発見のために「バイキング料理」を例に物事を一度抽象化し、それらを再度、具体化しなおす練



習をしました。そして、この考え方をい、校内会計においてどんな方法を使って不正ができるかを考えました。様々な意見が次々と出され、想像以上に学校には「不正が起



きる機会」が多くあるということが分かりました。そして、問題点を再びまとめていくことで、「つまり何が問題なのか」を明らかにし、午前の部が終わりました。

午後の部は、解決策を導くために「ロジックツリー」を使い、「痩せる」を例にとり、広く、深く考える練習をしました。身近なテーマに、受講者は様々な意見を出し合いツリーを作っていました。そして同様に「不正をなくす」というテ

ーマに対しても、抽象的な解決策から「どうやって？」を合い言葉にさらに具体的な策へとロジックツリーを完成させていきました。

続いて、相手を説得するための提案の基本を学びました。「事実・解釈・アクション」の論理を用い、不正防止プロジェクトメンバー（相手）に伝わる提案を考えました。個人で考えたことをグループでまとめ、さらにワールドカフェ方式を取り入れ、他のグループの意見を参考にする時間をもちました。また、誰かを説得する前に自分自身を説得することや、説得には結論から述べること、起承転結で話すより簡潔で、話す量を減らせば業務改善につながる、そして相手に「イエス」と答えてもらえる内容を交えて話すことで、段階的に合意を取り付ける、などのお話もありました。

最後の演習では、プロジェクト・チームの企画書作成を行いました。内容は、プロジェクトの目的・成功基準（目標）・行うべき行動・メンバーと選定理由です。研修で学んだことを使って、どのグループも素晴らしい企画書を作成することができました。



研修の終わりには、受講者に「チーム学校」の「チームの一員」から「チームのリーダー」になっていくことを期待しているというお言葉がありました。不正会計撲滅のためのプロジェクト・チームを立ち上げるという難しい内容でしたが、グループワークも多く、受講者は積極的に話し合いに参加し学んだ様子でした。理論的に考えることの意義、「学ぶ・考える」質の向上の大切さなどを学び、企画提案型事務職員としての成長が図れたようです。4か月後には、自校の学校会計についての実践内容を事後レポート（Actionシート③）として提出してもらう予定です。今回の研修で学んだことを学校でも活かし、組織の一員として、教職員と協働し様々な学校の課題に取り組んでいって欲しいと思います。